

あしたの風

第 82 号

平成 28 年 2 月 1 日 発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

秋 田 市 の 生 涯 学 習



地域における新しい社会教育拠点施設

～東部市民サービスセンター いーぱる～

☆☆ 東部地区 ☆☆

「いーぱる」に想つ

東部地区生涯学習奨励員

奈良 章子

平成二十七年八月二十四日、東部地域住民の長年の願望であった東部市民サービスセンター「いーぱる」が地域における住民自治の拠点施設としてオープンしました。「いーぱる」には生涯学習活動や地域活動に利用できる和室二室、洋室三室があり、電気窯や電動ろくろのある陶芸工作

いーぱる ふれあいまつり



室、IH調理台が四台ある調理室、いつでもゆつくり読書ができる読書室もあります。スポーツを楽しむみたい時には、バスケットボールコート一面、バレーボールコート一面またはバトミントンコート二面がとれる多目的ホールがあります。一三二席の移動式観覧席とステージを備えた地域文化ホールも魅力の一つです。子育てひろばは、子育て相談や子育てに関するイベント等を通じて専門スタッフが地域の子育てを応援しております。毎日たくさんのお客さんが訪れており、子ども達のかわいい声でセンター内は活気にあふれております。

災害時には住民の避難場所になります。水・食料品・毛布等必要品の備蓄や速やかに設置可能な簡易トイレなど、住民にとって大変頼もしく、心強い施設です。十月二十四日・二十五日は「いーぱる」になって初めてのセンターまつりが「見て・聞いて・深まる絆」をテーマに開催され、多数の市民が集い、大盛況でした。十一月六日には秋田市生涯学習奨励員の研究会が行われ、施設の見学もして頂きました。新しい施設として生まれ変わった東部市民サービスセンター「いーぱる」が東部地域住民のみならず、秋田市全住民の交流の場としてますます大きな役割を果たしてくれる事を期待しております。



☆☆ 中央地区 ☆☆

日本一低い富士山とその周辺

中央地区生涯学習奨励員

加藤 長二郎

一九八八年、静岡県富士商工会議所より、明田富士山(みょうでんふじやま)標高三千五百メートルが、日本一低い富士山というお墨付きをいただきました。

その富士山は、東通明田の太平洋右岸にあり、川沿いに登山道があります。急坂を五分ほど登れば、約五〇〇平方メートルの台地が頂上であります。その北側には大きなケヤキの樹がひとときわ高くそびえ、そばに富士大権現と彫られた石碑が建っています。頂上からは、東通地域はもろろん、奥羽本線、羽越線を走る電車、そして駅周辺から市内遠くまで見渡せる素晴らしい眺望となっております。

私が小学生の頃は、山でチャンバラごっこ、昆虫採集をしたり、よく遊んだものでした。当時の頂上はきれいな芝生で覆われていました。みんな寝ころんで空を仰ぎ、麓を流れる太平洋で泳ぎ、冬は山のあちこちの斜面でソリ滑り、スキーなど四季を通じて、子どもたちの大いなる遊び場でした。

明田富士山頂



古地図や資料を見ると、この地には佐竹入部に前に、富士太郎という豪族の居館があったと伝えられています。

富士はその名残で権現はその守り神だったとみられます。他に大行院、白山神社、薬師、麻利支天などがあり、古くから信仰の対象であった様です。

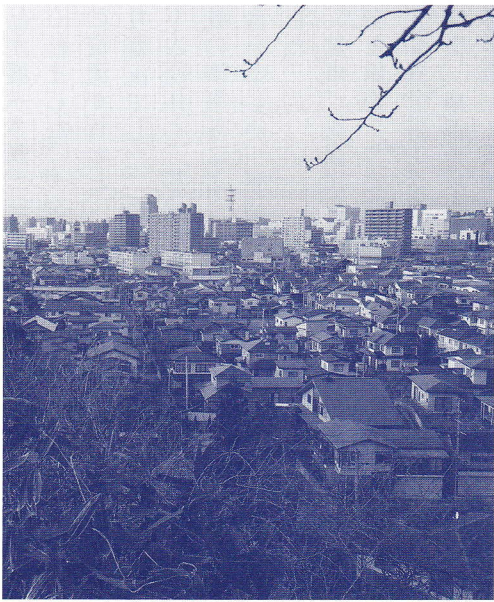
この明田富士山は、ご本家富士山みたいに美しい形ではなく、今日では木々が生い茂って形がわからない状態になっております。

西側斜面は藩政期頃から削り取られ、沼地・湿地帯だった手形堀反、南通築地、今の秋田駅周辺などに土砂を埋め立てたり、他にも農家の人たちが田んぼの客土に使ったそうです。

長い年月に亘って土取場として山が削られ、昔の四分の一くらいになったと言われています。

周辺には、現存する磯前神社（いそざきじんじや）、馬頭観音（明田神社）、稲荷神社、多くの庚申塚、明田墓地などがあります。

山頂からの眺め



磯前神社は、漁労の神を祀っています。かつては、新屋の漁民たちが豊漁を祈願したといえます。明田墓地は、江戸時代の榎山武士の墓が多く、神社の参道に沿って様々な石塚が並んでいます。一番多いのが七庚申、ほかに唐松大神、二十三夜などの文字を刻んだ石塔があちこちにあり往時の賑わいが偲べれます。

地域として、この遺跡に誇りを持ち、環境整備に努め、みんなの鎮守の杜として後世に残していきたいと思っております。

現在の明田富士



☆☆南部地区☆☆

最後の南部公民館まつり

南部公民館サークル連合会
会長 本間 廣 清

南部公民館は、昭和四十七年六月、地域の生涯学習の拠点として開館しました。今年四十四年を迎え、現在の登録サークル数六十五団体、会員数八二〇人が活発に活動をしています。その他各種団体による講座や会議等で、年間五万人以上が利用しています。そして何より、長年続いてきた公民館まつりは、毎年大盛況です。今年はその拠点施設整備と老朽化に伴い、平成二十八年度中に解体される事が決まり、最後になるということ、まつりに対する意気込みは、いつもと一味違いました。



十月二〜四日の三日間、強風や雨で恵まれない天気の中、二〇一九人の入館者数でした。駐車場では、新鮮野菜と果物の販売や、焼き鳥・玉こん等の屋台を出し、寒い中完売しました。売店では、手作りの鶏飯やマドレーヌ、やましな等が並び、食堂のうどんやそばと共においしいと好評でした。各部屋には、十五団体四五〇作



出店やバザーの様子



品が展示され、一年間の活動成果を存分に見せてくれました。ダンスパーティは、他地域の方々の交流が行われ、バザーは前年以上の提供品があり盛況でした。最終日の締めである芸能発表は、十六団体と三年前から特別出演している城南中学校の演劇部により、三百余名の観客が最後まで舞台を楽しみ、感動している姿を見ることができました。

無事、盛会に終える事ができたのも、実行委員会と館長はじめ職員による準備会議に始まり、公民館運営協力委員、サークル連合会、ボランティア会、南部地区市民憲章推進協議会、南部老連、各学級生と多数の協力と支援を得て、一丸となり頑張った結果だと思えます。

初期から利用してきた私としては、解体されるのは寂しいのですが、この団結力があれば、新施設でも実り多い地域の繋がりができると信じています。

☆☆土崎地区☆☆

自主企画事業を実施して

土崎地区生涯学習奨励員

小野 勲 夫

土崎地区生涯学習奨励員会の自主企画事業で「みんなで歌おう」と題して、平成二十七年二月に第一回を開催しました。募集定員一〇〇名を目標に募集した結果、皆様の努力で定員を遙かに超える一五〇名以上の申込みがあったのはビックリでした。

選曲は、「日本の歌百選（平成十九年に文化庁と日本PTA全国協議会が、親子で長く歌い続けて欲しい歌一〇一曲を選定した）」より、第一部・ピアノ伴奏で「春を歌おう」、第二部・DVDで「思い出の歌／懐かしい歌」、第三部・ピアノ伴奏で「叙情歌を歌おう」にしました。選曲は、ピアノ伴奏の京野香さんと調整し決定。本番当日、開会の挨拶・会長の挨拶と進み、いよいよ、第一部「冬景色」から歌いはじめました。素晴らしい伴奏と、私のつたない進行で、途中休憩を挟みながら二時間。最後「秋田県民歌」で締め、三十一曲を時間どおり歌い終わり、皆さん大きな声で気持ちよく歌ってくださいました。大勢で歌うって、素晴らしい！会場から帰られる際、皆さんの顔がいい顔で、握手しながら、またやって欲しいとの要望も多数あり、この会を開催して良かったと、しみじみ感じました。関係各位に感謝「有り難うございました。」

この熱気で平成二十七年九月に第二回目を「秋



の歌」を柱に三十三曲選曲し実施。前回同様好評を得ることが出来ました。〈ほがらかに歌うと「心と脳」にいい〉と言われており、皆で歌うとより良いとされています。また、「日本の歌百選」は次世代に歌い継いで行くにふさわしい名曲ばかりなので、機会あるごとに歌っていきたくないと考えておりますし、皆で歌い継いでいきましょう。〈心に太陽を持って、唇に歌を持って〉

みんなで歌おう！



《連載》社会教育活動拠点施設

秋田城跡調査事務所について

秋田城跡調査事務所
主査（文化財保護主事）

神田 和彦

秋田城跡調査事務所は、秋田市寺内にある「史跡秋田城跡」の保護・管理、調査・研究、公開活用を行っています。史跡秋田城跡は、奈良時代から平安時代にかけての東北地方の日本海側（出羽国）に置かれた大規模な地方官庁の遺跡で、古代

の政治・軍事・文化の中心地でした。当時、東北地方各地にいくつも同じような施設が作られています。その中でも秋田城は最も北に位置しています。

秋田城の実体解明のための発掘調査は、昭和三十四年から三十七年までは国が直接行いました。昭和四十七年からは秋田市教育委員会が行い、現在も継続しています。この発掘調査によって、奈良・平安時代の律令国家の地方官庁である秋田城の支配の実体が明らかになってきており、大きな発見がこれまでにたくさんありました。

特に、平成六・七年に発見された奈良時代の水洗廁跡（トイレ遺構）は、重要な発見でした。秋田城より立派な奈良時代のトイレは、全国広く見渡しても未だ発見されていません。これはお客さんのトイレであり、大陸からの来訪者も使用した可能性が考えられています。発掘調査によって得られた成果をもとに、当時の姿がわかるように史跡公園として整備し、市民の憩いの場になっています。また、秋田城を広く知ってもらうために、様々なイベントを行う公開活用事業も行っています。平成二十六年の国民文化祭の時に、秋田城跡のイメージキャラクター「秋麻呂くん」が誕生しました。そして、平成二十八年四月には、新しい資料館が現在の事務所の隣にオープンし、これまで展示することのできなかった貴重な遺物を公開します。春になったら是非、足をお運びください。

※秋田城跡調査事務所は、平成二十八年四月十六日から「秋田城跡歴史資料館」と名称が変更になります。

○資料館開館時間

（平成二十八年四月十六日から）

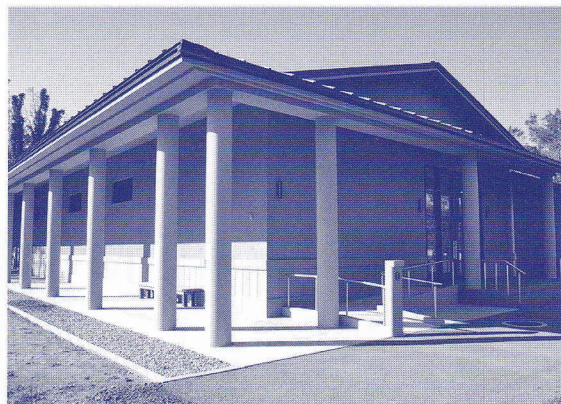
午前九時から午後四時三〇分まで

（土日祝日も開館しております）

休館日

十二月二十九日から一月三日まで

新しい秋田城跡歴史資料館



秋田城イメージキャラクター「秋麻呂くん」



秋田県公民館連合会表彰

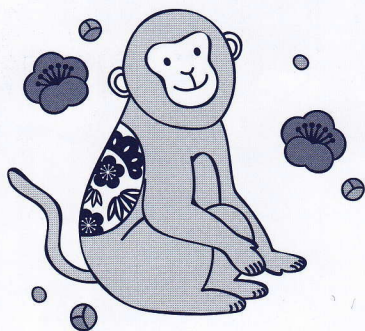
平成二十七年十月十六日、第六五回秋田県公民館大会において、左記の方々が表彰されました。

伊藤 邦子 様 (中央地区)

和田 留美子 様 (北部地区)

鈴木 一彦 様 (南部地区)

おめでとうございます。
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



生涯学習奨励員って・・・

地域における生涯学習を盛んにするためには、住民の身近なところで学習活動を奨励、援助する人が必要です。

生涯学習奨励員は、市町村や各種団体が主催する行事への参加を促したり、楽しい学習事例を紹介したり、自らが公民館や地域への行事に進んで協力する等の役割があります。

「あしたの風」はどこに配布しているの？

「あしたの風」は年2回（9月と2月）各一、一〇〇部発行し、秋田県の社会教育施設（生涯学習センター、図書館など）や秋田市の社会教育施設（公民館、図書館など）、社会教育関係委員（社会教育委員、生涯学習奨励員など）に配布しています。このほかに、市民サービスセンター、地域センター、コミュニティセンターにも配布しています。

ご希望の方は秋田市教育委員会生涯学習室（八六六一二二四五）までご連絡ください。

編集後記

「あしたの風」の原稿ご依頼を、快く引き受けてくださる方ばかりで、大変ありがたく、心から感謝申し上げます。

多くの皆さまに、親しみを持って読んでいただけるような誌面づくりに、これからも励みたいと思っております。



編集委員（秋田市生涯学習奨励員）

- 田村 美穂子（土崎） 富樫 智恵子（中央）
- 永井 文代（東部） 相原 和子（西部）
- 乙供 美香（南部） 来栖 瑞恵（北部）
- 石塚 小枝子（河辺） 大友 昌子（雄和）

『あしたの風』第82号

発行年月日 平成28年2月1日
編集発行 秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王二丁目1番53号
山王21ビル
電話 〇一八—八六六一—二二四五

この広報誌は
単価 一部57円（消費税抜き）
発行部数 一、一〇〇部
配布方法 無料配布